

問題4 建築工事において、次の1.から4.の問いに答えなさい。

ただし、留意事項等は、それぞれ異なる内容の記述とし、作業員の安全に関する記述は除くものとする。また、使用資機材に不良品はないものとする。

1. 既製コンクリート杭のセメントミルク工法について留意事項を2つ具体的に記述しなさい。
2. 鉄筋のガス圧接の作業前及び鉄筋加工について留意事項を2つ具体的に記述しなさい。
ただし、圧接作業に使用する装置、器具類は正常に作動するものとする。
3. 軽量コンクリートの運搬、打込み、締固めに対する留意事項を2つ具体的に記述しなさい。
4. 鉄骨の建方時における仮ボルトの締付けなどの施工上の留意事項を2つ具体的に記述しなさい。

問題5 次の1.から8.の各記述において、 に当てはまる最も適当な語句又は数値の組合せを、下の枠内から1つ選びなさい。

1. コンクリート下地に、屋根用塗膜防水材料（ウレタンゴム系、ゴムアスファルト系）を用いて施工する塗膜防水の保護緩衝材を地下外壁防水の保護に使用する場合、保護緩衝材の材質は補強クロス付き a 発泡材とし、厚さ b mm以上のものとする。

屋内防水層と保護コンクリートを絶縁する目的で使用する場合、絶縁用シートは、屋根保護防水密着断熱工法又は屋根保護防水絶縁断熱工法の場合はポリプロピレン、ポリエチレン等を平織りしたフラットヤーンクロス（ c g/m²程度）とする。

	a	b	c
①	ウレタン	5	70
②	ポリエチレン	5	70
③	ウレタン	10	70
④	ポリエチレン	10	80
⑤	ウレタン	10	80

2. 内壁空積工法における受金物は石材の幅が900mm以下の場合は、縦目地位置ごとに長さ150mmの受金物を取り付ける。ただし、出隅部及び入隅部は、端部から a mm程度の位置に長さ100mmの受金物を取り付ける。石材の幅が900mmを超える場合は、石材の b から250mm程度の位置に長さ c mmの受金物を取り付ける。

	a	b	c
①	250	両端部	100
②	200	両端部	100
③	200	両端部	100
④	250	中央部	150
⑤	250	中央部	150